

ヒノキコンテナ苗植栽後の検証現地検討会を開催

〔岐阜署／森林技術・支援センター〕 平成28年5月12日、岐阜県下呂市金山市民会館および岐阜署管内の高天良国有林において「ヒノキコンテナ苗植栽後の検証現地検討会」を開催しました。

コンテナ苗は、通常流通している普通苗に比べて「植栽時期が長い」「植栽が容易」「活着率が良い」等、低コスト造林技術の確立のために不可欠であり、その試験研究が全国で行われています。

高天良国有林では岐阜県森林研究所と共同でコンテナ苗試験地を設定し二年が経過したことから、これまでの研究開発の結果等について発表を行うとともに、現地において生育状況の検証を行い、その普及を図ることを目的に募集したところ、県内の地方公共団体や林業団体等約60名の参加がありました。

はじめに、金山市民会館において民国連携して取り組んでいる研究課題について、森林技術・支援センター三村森林技術普及専門官から①「普通苗とコンテナ苗の植栽工期の違い」岐阜県森林研究所茂木主任専門研究員から②「植栽後の初期成長に優れるヒノキコンテナ苗の開発」同所渡邊専門研究員から③「植栽効率の向上と通年植栽に向けた技術開発」の発表を行いました。

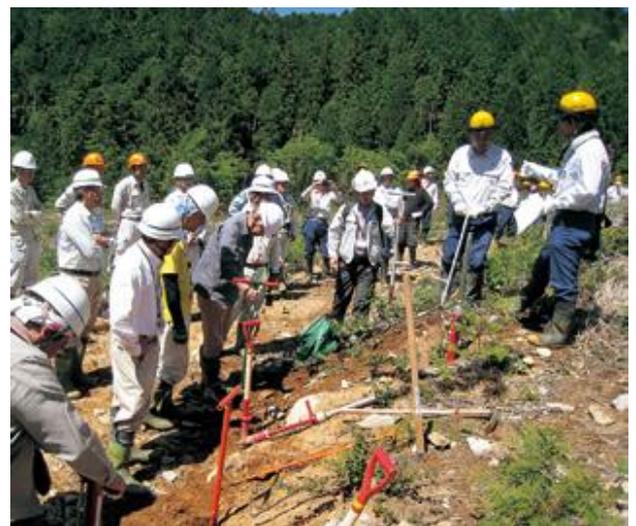
午後は会場を高天良国有林の試験地に移し、成長、根鉢の発根状況の確認とコンテナ苗用に開発された様々な植栽器具の展示説明を行いました。

参加者からは「成長の早いコンテナ苗で下刈の省略ができないか」「下刈り回数が減らせないか」「地拵の省略も可能ではないか」「植栽器具の重さの違いがよくわかった」等の感想がありました。

今後は、現在までに蓄積している実証データと継続中の成長調査データをとりまとめ、ホームページ等により情報発信するなど低コスト造林技術の開発・普及に取り組んでいくこととしています。



生育状況検証の様子



さまざまな植栽危機を手に取る参加者